自己調整力を身につける通級指導
～ＳＴＥＡＭ教育による児童主体の試行錯誤を目指した指導～

熊本市立五福小学校　教諭　古田翔太郎

要　約

通級指導教室の指導において，児童自身の困り感を自ら発見し，改善・克服する方法を実現すると同時に，課題の達成感と更なる試行錯誤を生み出すことが大切だと感じた。そのための実践として，長所・短所から自分がよりよくできる項目を考え，そのために必要なツールを製作・改良し，目的達成を目指す学習活動を行った。本実践を通して，児童が主体的に試行錯誤をし，達成感を得ながら目的を遂行・解決することで，目的に迫った学習活動の重要性が明らかになった。

＜キーワード＞　　自己調整力、課題発見・解決、主体性、試行錯誤、ＳＴＥＡＭ教育

１　実践の目的

教育再生実行会議の第十一次提言において,「国は、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することができるよう、初等中等教育段階においては、ＳＴＥＡＭ 教育（Ｓｃｉｅｎｃｅ，Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ，Ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ，Ａｒｔ，Ｍａｔｈｅｍａｔｉｃｓ 等の各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育）を推進するため、『総合的な学習の時間』や『総合的な探究の時間』、『理数探究』等における問題発見・解決的な学習活動の充実を図る。」ことを提言している。

また，通級指導教室における自立活動の指導においては,「個々の児童又は生徒が自立を目指し，障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識，技能，態度及び習慣を養い，もって心身の調和的発達の基盤を培う。」ことが目標とされており，児童又は生徒自身が自立に向かう指導が必要である。

本校通級指導教室「ごふく教室」で担当する児童の特徴として,「感情のコントロールが難しい」「その場のルールや相手の思いに気づきにくい」「集中が続きにくい，気が散りやすい」などの課題が挙げられる。児童からは，自身の課題について「よくしたい」「どうにかしたい」という気持ちはあるものの，何が課題で，どうすれば改善・克服に向かうか分からない様子が見られる。

これらのことから，本実践では，児童自身が障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するための方法として，ＳＴＥＡＭ教育における教科横断的な学びを活用し，実際に試行錯誤を繰り返しながら，知識，技能，態度及び習慣を養うことを目的としている。それと同時に，本実践で学んだ方法を児童自ら生かし，取り上げた課題以外においても，課題を自ら改善・克服しようとする態度を育成することを目的とした。

２　参考文献

1)内閣府『技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第十一次提言)』2019
2)文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編』2018
3)LD 発達相談センターかながわ『あたまと心で考えよう SST ワークシート 思春期編』2012